

# 成願寺

季報

116

平成30年2月18日  
(2018年)

目次

「念ずる姿」竹村信彦……………	1
小笹会生研究報告「私の研究」相樂悠太……………	6
中野区立桃園小学校二年生 生活科学習で来山……………	7
山内短信……………	8

発行 多宝山成願寺  
〒164-0012 東京都  
中野区本町 2-26-6  
電話 03-3372-2711  
制作 地人館

平成二十九年年末の会説教

## 念ずる姿

長野県長福寺住職 竹村信彦

今回は駒澤大・永平寺・曹洞宗総合研究センターで研鑽した若手の登場です。七十八十代の参加者から『初めは孫の話を聞くような楽しさ、終わりは気持ち良い話だった』と好評でした。 住職 小林貢人

みなさま、こんにちは。本日は長野県北安曇郡池田町というところから参りました。近くの大きな街



長野県長福寺住職 竹村信彦師

には松本市がございまして、その隣が安曇野市。そのさらに隣の小さな町にございます、長福寺の住職をしております。

先ほど方丈様にご紹介いただきましたように、私が駒澤大学の学生のときに成願寺様で色々と勉強を

### ◎春彼岸中日法要「修証義奉読会」のお知らせ

三月二十一日(水) 春分の日

午前十一時～ 受付始まり

午後十二時 講談 日向ひまわり師

午後一時 檀信徒春彼岸法要

### ◎春の観音詣りのお知らせ

四月二十九日(日) 昭和の日

鳩山町の古刹金澤寺こんざせの拝登をはじめ埼玉県中西部の社寺名所を巡ります。金澤寺は建保六年(一一二八)開創、ご本尊は正観音様。国宝の妻沼聖天山も巡拝予定です。

会費 一万五千元(見込み)

させていただきました。と言いますのも、私ほどもとお寺の息子ではございませんで、在家という言い方をいたしますが、いわゆる一般の家庭で生まれ育ちました。実家は同じ長野県の松川町。りんご農家の長男として生まれ、高校生の時に出家をしたのです。

そのきっかけとなりましたのは、私の曾祖母、つまりひいおばあさんが亡くなったことです。それが初めての身近な人の死だったわけです。高校生という多感な時期のことですので、曾祖母が亡くなったことももちろん悲しかったわけですが、一番は、「自分も死ぬんだな」と実感したこと。これが非常にショックでした。

「どんなに将来お金を稼いで良い生活をして、どんなに美味しいものを食べても、どうせ死んじやうのか」「それならなぜ生きるのだろう」。これが私にとつて大きなテーマとなりました。その答えは高校生であった私に出せるわけもございませんが、何をしている時が楽しいかを考えてみましたら、周りの人が喜んでくれることを自分ができる時、自分も嬉しいと思つていることに気がつきました。高校生である自分に特別な何かができるというわけではない。

でも、「少しでも人の役に立つてから死んでいきたいな」という思いに至つたわけです。そこで自分を改めて考えてみましたら、「ずいぶんわがままに生活している、これは鍛えなければいけない」というところから、「確か永平寺というお寺では厳しい修行をしていると聞いたことがあるな、お坊さんになつて修行をして少しでも自分を鍛え直したい」。

こうした思いから出家をして、駒澤大学の仏教学部に進学をしました。が、なにせお寺で生活をしたことがございませんので、成願寺様でお手伝いをさせていたただきながら、細々こまこまとしたお寺でのしきたりなどを学ばせていただいた。というわけで大学時代すっかりお世話になりました。その後、念願でございました永平寺へ上がり、三年半修行をさせていただきました。これは長い方なのですが、もともととお寺の息子である修行仲間のお坊さんたちは、早く降りて実家のお寺を手伝うわけです。ところが私の実家はりんご農家でございますから、何年修行していても誰も困らない。そうして永平寺での修行から戻りましたら、ご縁をいただきまして、現在のお寺に入り住職をさせていただいているわけでございます。

本日は大恩ある方丈様から「話を頼みたい」とご

連絡をいただきまして、人生の先輩方の前でなんの話ができるかと思いましたが、納めの観音様のご縁日ですので、これから観音様のことを少しお話しさせていただきますと思います。

### 観音様の力を念じる

みなさまは長いこと、成願寺様の観音様に参拝されて、また春秋の観音詣りにもご参加されて、観音様にお詳しいかと思いますが、おさらいの意味で申しますと、観音様の正式名称は、観自在菩薩くわんじざいぼさつまたは観世音菩薩くわんぜおんぼさつ。その意味するところは、世の中の人々の音声、願いを観じて、その苦悩から救済してくださる。

成願寺様の観音堂を参拝なさいますと、様々なお姿の観音様がいらつしやることにお気づきになるかと思えます。たくさんの手をお持ちの千手観音様、頭に馬をお持ちの馬頭観音様、片膝を立ててお座りの如意輪観音様、十一の顔をお持ちの十一面観音様、三つの眼と十八の腕をお持ちの准胝観音様、そして観音堂の本尊様であります聖観音様。この六観音様が代表的なわけですが、先ほどみなさまとお上げした観音経には、三十三のお姿に変じて我々を救いに

来てくださると説かれています。我々に必要なお姿になって救ってくださいということ。ちなみに京都の三十三間堂や、坂東三十三所霊場は、この観音経の三十三という数からきているのです。

また、観音経には「念彼観音力ねんびくわんのんりき」とたくさん出てきます。これは何かと申しますと、彼の観音の力を念じるならば、こんなことがあります。こんなこともあります、というたくさんの例をあげている。様々な功德を紹介しているわけですが、最初に「観音の名を聞き、そして姿を見て心に念じて空しく過ごさないならば、心をもつすべての存在の苦しみを巧みに滅するだろう」。つまりみなさんが日常生活の中にあっても観音様の力を念じたならば、すぐさま苦しみから救ってください。これが観音様の最大の功德かと思うわけでございます。

鶴見に總持寺がございます。私が修行した永平寺と並ぶ大本山でございます。永平寺の開祖道元禪師と總持寺の開祖瑩山禪師のお二人で両祖様とお呼びして、お慕いを申し上げているわけですが、瑩山禪師のお母様である恵観大姉は熱心な観音信者で、子宝を願って一日に三百三十三回礼拝し、観音経三十卷の読経を続けたそうです。そうして授かったのが

瑩山禪師で、三歳で観音様に「なむなむ」と唱え、五歳の頃には土をこねて仏像をつくったり、お経を読んだり。「観音様の応現と称された」と伝わっています。そうしたことからも私たちは観音様、観音経をととても大切に、両本山では朝のお勤めの際にも毎日上げられているわけです。

「念じる」は「ただ願う」のではない

先ほど、観音の力を念じるならば、ということをお話させていただきましたが、念じるということはどういうことなのでしょう。ここで仏教詩人であります坂村真民（一九〇九〜二〇〇六）の詩をご紹介します。

「念ずれば、花ひらく」

念ずれば

花ひらく

苦しいとき

母がいつも口にしていた

このことばを

わたしもいつのころからか

となえるようになった

そうしてそのたび

わたしの花がふしぎと

ひとつひとつ

ひらいていった

この坂村真民という方は熊本県出身で、お母様が女手一つで五人のきょうだいを育てたそうです。大変なご苦労であつただろうと思います。家事、育児、仕事に追われてお辛いときもあつたでしょう。その時にお母様が口にされていたその言葉が、「念ずれば、花ひらく」ということかと思えます。

この「念」という字、「今」の下に「心」と書きますが、仏教では「念」の意味を「今、この瞬間」と捉えています。念じるということは、手を合わせたり、お経を唱えたりといういろいろな形があると思いますが、大切なのはただ願うだけではなくて、いまこの瞬間、自分のできることを一生懸命取り組むということです。そのことが何よりも大事なのかなと考えております。自分自身がやるべきことをしっかりと取り組んだならば、その努力は報われるであろうという願いが込められたのが「念ずれば、花ひらく」という詩なの

かと思えます。

なかなか自分のしてきたことですぐに結果を出すということは難しいとは思いますが、全て無駄になるということもないのかなと思います。今という時間を大切にすることが積み重ねとなって、己の経験となる。そうした経験から、優しさや親切にする心が芽生えてくるのかと思うのです。

こうしたことを思いますと、私はいつも父の姿を思い出します。先ほど申しましたが、父はりんご農家ですが、兼業でございまして毎朝出勤しておりました。父は毎朝出かける前にお仏壇のお水を取り替えるわけですが、古いお水は玄関前の木の根に流し、新しいお水と炊きたてのご飯をお供えしてお線香を上げて鈴をならし、手を合わせておりました。その姿は毎朝かかさずにあつて、私は幼い頃、「なぜ毎朝同じことをして手を合わせるの？」と聞いたことがございます。そのときに父が、「今日一日仕事をがんばってきます。どうか見守ってください、と仏様にお祈りしているんだよ」と教えてくれました。誰もがそうであるように、いつも良いことばかりではございません。仕事をしていて辛いこともあったことでしょう。でもそのときにふと、仏様、観音

様を心に念じる。そうしますと、さつと優しさが胸に蘇ってくる。先ほど私のひいおばあさんが亡くなった話をいたしました。父にとりましてもとても優しいおばあさんであったそうです。そのおばあさんが亡くなってからは、ついつい人に辛くあたりそうなどきなど、おばあさんが心に現れて不思議と気持ちを静めてくれた。こうしたことは「毎朝、仏様、ご先祖様に手を合わせたおかげなんだよ」という話をしてくれました。

「念じる」というのは、ただ自分の願いを神仏に伝えるだけではなくて、何か自分の取り組む姿を見守っていたかどうかということが、大切な要素なのかと父の姿から感じたわけです。

こうしたことを違う言葉で「誓願」と申します。自分のできることを仏様に誓って、その姿を見守っていたら、くじけそうなときに、仏様にお誓いしたことを思い出してまたがんばっていきける。

今日の法要のなかで、私も一つの誓願をさせていただきます。きつとみなさんもお誓いをされたかと思えます。それが日常生活において、仏様、観音様を心に念じるきっかけとなればと願っております。

本日はご清聴ありがとうございました。 合掌

## 小笹会学生研究報告「私の研究」

東京大学大学院人文社会科学系研究科博士課程

相樂悠太

私の専門はイスラーム神秘主義（スーフイズム）思想の研究である。イスラーム神秘主義には八〜九世紀に始まり現在にまで至る長い歴史があるが、私の研究対象は十二世紀のイブン・アラビーという思想家である。イブン・アラビーはスペイン出身で、北アフリカ・西アジア地域を旅しながら著述活動を行った神秘家（スーフイー）である。彼は「最大の師」と呼ばれ、イスラーム神秘主義の歴史上最大の思想家であると同時に、イスラーム思想史の中ではイブン・スリーナー（アヴィセンナ）、ガザリーらと並ぶ巨大な存在である。

イブン・アラビーはイスラーム神秘主義の思想史の流れを大きく変えた思想家だといわれる。彼以前のスーフイーたちの思想では、神に近づくための修行の方法や、その過程の中で神秘家が体験する精神的変容が主な問題であった。イブン・アラビーはこれを踏まえつつ、神との合一を果たした境地から世界全体の実相がどのように見えるかという問題を提

起し、これをめぐる理論を展開した。この影響を受けて、彼以降のスーフイーたちの関心は、それ以前の体験中心な靈魂論・修行論から、形而上学的な存在論・宇宙論へと移っていった。

従来の研究では、イブン・アラビー思想の中でもとくに後代との連続性が強い側面が注目される傾向にあった。有名な教説に、世界全体が神の顕現の場であり、世界に存在する万物は多様な形をとった一なる神の顕現であると説く「存在一性論」がある。これに対して、彼の思想の中で前代との連続性が強い、靈魂論や修行論はほとんど研究が進んでいなかった。しかし近年では、イブン・アラビー思想に対する彼以前のスーフイーたちの思想の影響を考察した研究が発表されるなど、先行の神秘主義的伝統に連なる彼の思想の側面の重要性が認識され始めている。こうした研究動向をふまえて、私は、イブン・アラビー以前のスーフイーたちの主要な関心の対象であった靈魂論や修行論を、イブン・アラビーがどのように論じているかを明らかにすることを目的として研究を行っている。具体的な作業としては、イブン・アラビーの名著とされる『マツカ開扉』のアラビア語原文を読解し、彼以前のスーフイーたちの文献と比

較しつつ分析している。こうした私の研究成果は、国内の学会の大会での研究発表や、国内の専門誌に掲載の学術論文という形で発表され始めている。こうした取り組みを今後も継続していきたい。

### 中野区立桃園小学校二年生 生活科学習で来山



質問を受ける住職



お掃除体験をする子どもたち

去る、十月二十七日（金）、近隣の桃園小学校二年生五人が、生活科の授業の一環「まちゃんけん」の学習で来山しました。防空壕の見学、そのあと本堂にて住職が質問を受けました。お寺に残る戦前の写真などを見てもらい、当時の様子などのお話をしました。子どもたちの希望で本尊様に参拝したあと、須弥壇のお掃除体験。観音堂、鍋島家の墓地を参拝して学校へ帰っていききました。後日、メッセージが届きましたので紹介します。

◎おいそがしい中、私たちを出むかえていただいて、

ありがとうございます。お寺のことを知ることで、よいけいけんになりました。ぼうくうごうでは、むかしは土だったけどコンクリートでかためているなど、いろいろなことを知りました。じょうがん寺で学んだことはぜったいわすれませんが、

◎おしごとがたいへんな時に町たんけんをさせていただき、ありがとうございます。あまり行けない場しよに行つて、知らないことを知りました。じょうがん寺にはおしごとがいっぱいあつて、びつくりしました。

◎ほうじょうさん、町たんけんの時はありませんでした。ぞうきんがけをしてまいりたいへんなことをしているんだなと思いました。

◎わたしはじょうがん寺でいろいろなたんけんと体けんができてばんきょうになりました。はじめて行つたので思い出もできました。

◎ぞうきんがけをさせてくれて、ありがとうございます。お寺のあん内をしていただき、ありがとうございます。

## 山内短信

### ◎田中大輔中野区長「長つと散歩」撮影に来山



古文書に見入る区長

去る一月二十七日（土）、ケーブルテレビ・ジェイコムの番組「長つと散歩」の撮影に田中大輔中野区長が来山しました。区長がまちの案内人として中野区の魅力を伝える内容で、中野新橋から川島通り商店街の老舗等を紹介し、当山に至るコース。住職が出迎えると、防空壕、代々伝わる古文書や御開山のお袈裟などを紹介しました。月・水・金は正午より、火・木は午前十時から午後八時から放送しています。J:COMチャンネル（地デジ11CH）



お堂から観音様を搬出



◎観音堂の大掃除の報告  
毎年師走を迎えると観音堂のすず払いを行います。お坊さんだけでは手が足らず、観音奉賛会の信者さんにご協力をいただいています。一体、一体を堂外に持ち

出し、風とお日様の日差しを当てながら、筆を使って埃を払います。昨年は十二月十一日（月）の午前中に六人の信者さんにおいでいただきました。ご協力をいただける方、今年も十二月に行いますのでお申し出ください。

### ◎靈妙寺寺子屋の会「明心書道会」秋の書展の報告



人々に見入る作品

昨年十一月十七日（金）・十八日（土）の二日間、近所の法華宗靈妙寺様主催で「第三回 秋の書展」が善法庵（旧幼稚園舎）で開催されました。靈妙寺寺子屋の会の活動の一環として週四日の書道会をされて、今回の書展では五歳から八十歳過ぎまでの生徒さんの力作が多数展示されました。

### ◎寄宿生募集のお知らせ

当山近辺の施設に寄宿し、学校等に通う勤勉な者を受け付けます。  
朝の行事（作務・朝飯）に参加（七時以降自由）。  
僧俗・性別・国籍不問。二十二歳未満。  
作務は有給。寺務所にお問い合わせ下さい。